

未来をひらく! きずなを結ぶ! 平戸!!

-ともに前へ、一步ずつ着実に。-



平戸市長

まつお

ゆうじ

松尾 有嗣

人口減少を「選ばれるまちへの転換期」と捉え、市民一人ひとりが『住んでよかった』と実感できるまちを築いてまいります。

さらに、「離島も山間部も取り残さない」安心の社会を実現するため、医療・交通・防災の基盤整備強化に取り組みます。予約型乗合タクシーなどの推進や離島航路支援、市立病院機能再編、遠隔医療の導入など、市民の安全と生命を守る取り組みを進めてまいります。

そして私は、これからの市政運営において「開かれた市政」を強化してまいります。タウンミーティングや若者会議などの開催、SNSを活用した情報発信強化など、市民の声がまちの未来を動かす仕組づくりを目指してまいります。行政が市民の皆様から最も信頼されるパートナーとなるよう、誠実さとスピード

感を持つて市政に向き合っています。

平戸には、歴史、自然、人の温かさという、ほかには代えがたい宝があります。そして何より「可能性」があります。私は、このまちの持つ魅力と可能性を市民の皆様とともに、平戸の誇りとして未来につなげていきたいと考えております。

本年が、本市にとりまして「未来への新たなスタートの年」となるよう、市民の皆様とともに歩んでまいります。

「未来をひらく! きずなを結ぶ! 平戸!!」この言葉を胸に、誇れる平戸、選ばれる平戸の実現に全力で取り組むことをお誓い申し上げます。新しい年が市民の皆様にとって健やかで、幸せに満ちた一年となりますよう心より祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。

謹賀新年

明

けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、希望に満ちた新春を健やかに迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。また、日頃より市政に対しまして温かいご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

私は去る11月6日、市町村合併後第3代目の平戸市長として市政を担わせていただくこととなりました。私はこれまで国政の最前線で政策立案やさまざまな調整に携わり、数多くの地方の声とも向き合っていました。その経験と人脈を、いまこそ故郷・平戸の未来のためにという、その覚悟を改めて胸に秘め、この新春を迎えております。

昨年を振り返りますと、年末には待望の西九州自動車道「平戸IC」が開通いたしました。福岡都市圏とのアクセス向上は、観光・物流・産業といったあらゆる分野に新たなチャンスをもたらす、大きな一歩であります。また全国的な催事として「国民文化祭・全国障害者芸術・文化祭」が県内で開催され、本市でも「いけばな」や「お茶会」「文化まつり」を通じて、文化の力が地域を結びつけるかけがえない価値を再認識し、平戸の歴史と文化の魅力発信、一層の文化振興を図ることができました。

一方、国内に目を向ければ、コメ価格高騰に対し政府備蓄米の放出が行われるなど、一

次産業の脆弱性が改めて明らかになりました。また、「大阪・関西万博」が開催され、予想を超える来場者となりました。本市も平戸名誉大使である西本智実氏のお力添えにより、平和の象徴である「オリーブの木」をバチカン・イタリアパピリオンへ寄贈するという貴重な機会をいただき、平戸の名を世界遺産と平和の地として世界へ発信する契機となりました。また、大きな社会問題となっておりますクマ被害の増加をはじめ、災害・環境・地域社会の安全確保の重要性も改めて示された一年でありました。

こうした社会変化の中で、いま本市が求めているのは、「できない理由ではなく、どうすればできるか」を探し続ける姿勢です。私は、市民の皆様とともに挑戦し、未来を切り拓く市政を進めていく決意です。

私の重点政策の柱の一つは「二次産業の再生」です。農林水産業・畜産業は本市の誇りであり、未来への財産です。スマート農業や販路拡大支援、若い担い手の育成などを通じて、「稼げる二次産業」への転換を目指してまいります。コメ価格高騰や国際情勢の影響を受ける今こそ、地域の生産力と食の安全保障を強化する機会となります。

また「暮らし選ばれる平戸」づくりにも力を注ぎます。空き家の活用、移住者支援、子育て環境の充実、テレワークの拠点整備など、



平戸市長 政信 入口
いりぐち まさのぶ

明 けましておめでとうございます。市民の皆様方におかれましては、輝かしい年をお迎えされたこととお慶び申し上げます。日頃より平戸市の教育についてご協力いただき、感謝いたします。

本市の小・中学校では人材育成に注力し、子どもたちの教育に取り組んでおります。大島中学校では昨年11月に教科横断的・探究的な学習の手法を取り入れ、ふるさとを自分の視点で考え、能動的に行動する生徒の具現化を目指した研究発表が行われ、市内の学校に公開されました。

学校を取り巻く環境については、少子化の影響を受け中学校の生徒数も減少し、部活動の存続が難しい状況となっています。現在、国の施策として部活動の地域展開が推進されていますが、本市としても、まずは休日の生徒のスポーツ・文化活動の場を地域クラブに移行している状況です。誰もが経

験したことがない社会情勢の中で、子どもたちのスポーツ・文化活動を継続して保障していかなければなりません。このことについても、保護者をはじめ市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

生涯学習については、昨年末に著名な脳科学者でいらつしやる茂木健一郎氏を講師としてお招きしての講義が開催され、5回に渡るひらど市民大学を終了することができました。市民が、いつでも、どこでも学ぶことができる環境づくりのため、ひらど市民大学やまちづくり出前講座を開催しておりますので、ご活用ください。また、南部市民屋内運動場も本年1月末に完成する運びとなっておりますので、併せてお知らせいたします。

結びに、市民の皆様の益々のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

明 けましておめでとうございます。市民の皆様が穏やかな新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。平素より県政並びに地域活動に対する温かいご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

昨年は平戸市にとって記念すべき節目の一年となりました。市制施行20周年、そして戦後80年という重みある年を迎え、先人の歩みに感謝するとともに、次の時代をどのようにに築くかを市民の皆様とともに考える機会となりました。また、16年ぶりに新市長が誕生し、市政は新たな方向へ向けて力強い一步を踏み出しました。

さらに念願の西九州自動車道「平戸IC」の開通は地域間の往来を大きく変え、交流や物流、観光、さらには救急医療に至るまで、平戸市民の生活や産業に大きな恩恵をもたらしています。この好機を本市の

みならず県北地域全体の発展につなげるため、交通ネットワークの強化や農林水産業の振興などを県議会においても積極的に提案してまいります。

文化面でも、昨年の「ながさきピース文化祭」では平戸神楽をはじめとする伝統芸能や多彩な文化が各会場で見事に披露され、多くの来場者に深い感動を届けて頂きました。地域に息づく伝統芸能が平和への祈りとともに県内外へ響き渡ったことは、平戸市の文化力を再認識する大きな契機となりました。

本年は、これらの追い風を確かな成果へと結びつける「実行の一年」として、子育て・産業・交通・文化・福祉などの分野で、平戸の未来を切り拓く取り組みを着実に進めてまいります。

結びに、皆様にとって健康で実り多い一年となりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



長崎県議会議員 大久保 堅太
おおくば けんた

明 けましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、心新たに希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃から、本市の市政運営ならびに議会活動に対し、温かいご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

先般行われました平戸市議会議員一般選挙におきましては、4人の新人議員が誕生し、改選後初めてとなる令和7年12月平戸市議会定例会では、気持ちを新たに、一般質問や議案審議を

行いました。私も、議長に就任し2カ月が過ぎようとしています。日に日にその責任の重さを感じており、これからの平戸市発展のため、さらなる努力をしてまいりたいと、決意を新たにしております。

さて、昨年は、大きな国家的イベントとして、大阪・関西万博が開催され、世界各国の知恵と文化に触れる機会を国内外の皆さんに提供し、地域の観光振興や産業振興へ新たな視点をもたらしました。

また、初の女性総理大臣誕生という歴史的な出来事があり、社会全体として女

性の活躍が一段と重要な意味を持つ年となりました。平戸市も、この力強い潮流に呼応し、女性が活躍できる社会づくりを行政の重要課題の一つとして推し進めていければと思います。

一方、本市においては、10月1日に「平戸市市制施行20周年記念式典」を挙行し、合併後の20年の軌跡を振り返ったところですが、今後の大きな課題である人口減少の状況を踏まえ、持続可能な行政運営が必要であることを改めて確認したところです。

また、12月14日には待望の西九州自動車道の松浦IC～平戸IC間の開通式が執り行われました。これまでの間、市民の皆様とともに長年にわたり精力的に要望活動を続けてきた成果であり、ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。開通を契機に、さらなる交流人口の拡大、基幹産業である農林水産業や観光・商工業の振興につながるよ



▲西九州自動車道松浦佐々道路（松浦IC～平戸IC）開通式

う行政と市民の皆様とともに一体となつて取り組み、我がまち「平戸」の発展を目指していきます。そのためにも、引き続き西九州自動車道の全線開通に向け、積極的に国などの関係機関へ要望活動を行つてまいります。

令和8年4月には、根獅子小学校が紐差小学校へ統合され、生月小学校と山田小学校は合併し新「生月小学校」が誕生いたします。保護者や地域の皆様におかれましては、数年にわたり熱心にご協議いただき、施設の統廃合にご理解いただきまして、心より感謝申し上げます。子どもたちに

とつては、学校生活の環境が変わり大変かと思いますが、たくさん仲間と有意義な学校生活を送れるよう、学校、保護者、地域が一体となつてサポートしていただきたいと思っています。

私たち議会としましては、さまざまな課題の解決に向け、市民の皆様が目線に立ち、寄り添いながら、負担に応えられる市議会となるよう努め、今年の干支「午」のように力強く前進し、創意と工夫を持つて一步を切り拓く年としたいと考えております。

また、二元代表制における議会の機能を最大限に發揮し、平戸市発展に寄与してまいる所存ですので、市民の皆様の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、市民の皆様にとりまして、本年が笑顔あふれ、活気みなぎる年となりますことをご祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。



平戸市議会議長 近藤 芳人
こんどう よしと

性

6